

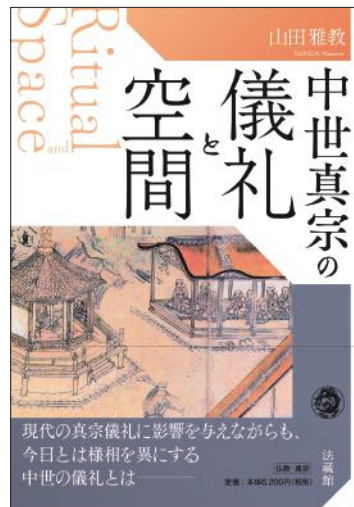
中世真宗の儀礼と空間

やまだ まさのり

山田雅教著

▼A5判・上製カバー・380頁・定価六、八二〇円

2021年11月刊行



現代の真宗儀礼に影響を与えながらも、今日とは様相を異にする中世の儀礼は、どのようなものであったのか。儀礼の歴史の変遷と儀礼空間、そして礼拝対象の掛け軸について、歴史学・教義学・建築史・美術史等から多角的に考察。

【目次】

序 章 中世真宗儀礼へのアプローチ——本書の視点と構成

一 現代社会と真宗儀礼／二 親鸞と儀礼／三 中世における真宗儀礼の歴史の変遷——尋有から覚如へ／四 真宗の儀礼空間／五 中世真宗における礼拝対象掛け軸／六 光明本尊の成立をめぐる

◆第一部 中世における真宗儀礼の歴史の変遷とその堂空間

第一章 初期本願寺における儀礼——覚如を中心として
はじめに／一 覚如臨終間際の礼讃／二 『拾遺古徳伝絵』から見た礼讃（その一）／三 『拾遺古徳伝絵』から見た礼讃（その二）／四 不断念仏と『報恩講私記』／五 儀礼の場／おわりに——覚如の儀礼観

第二章 覚如における声明観形成の背景

はじめに／一 覚如の声明観／二 「声、仏事をなす」の典拠をめぐる／三 「音声仏事」の思想／四 覚如の表現と浄土教文献／五 覚如と声明／六 天台声明における「声、仏事をなす」／七 五会念仏の影響／おわりに

第三章 儀礼空間としての山科本願寺

はじめに／一 山科本願寺に参詣する／二 日常勤行に参詣する／三 恒例法要に参詣する／おわりに

第四章 弥陀と御影——中世念仏者の信仰意識と堂空間

はじめに／一 阿弥陀堂と御影堂の平面プランの違い／二 阿弥陀如来蔵をめぐる／三 祖師御影をめぐる／四 中世の念仏者にとっての「本尊」とその空間／おわりに

◆第二部 中世真宗の儀礼空間を荘厳する礼拝対象掛け軸

第五章 中世後期における佛光寺と本願寺の名号観

はじめに／一 光明本尊と无导光本尊、六字名号 概観／二 光明本尊の三名号／三 无导光本尊／四 六字名号／五 佛光寺と本願寺の名号観——相互の影響／おわりに

第六章 中世の真宗における和朝の連坐像

はじめに／一 分布と制作年代／二 妙源寺の光明本尊をめぐる／三 讚銘から見た連坐像の展開／四 太子先徳連坐像における源空以下の先徳像／五 高僧先徳連坐像の構成と次第相承／おわりに

第七章 中世の真宗における天竺・震旦の連坐像

はじめに／一 天竺震旦連坐像の諸尊の配列から読み取れるもの／二 勢至菩薩と天竺の二菩薩／三 震旦の高僧たちの人選／四 震旦の高僧たちの像容／おわりに——本願寺系「七高僧図」への展開

第八章 光明本尊の成立背景

はじめに／一 真宗における聖境と信空の認識／二 湛空と光明本尊との関係／三 釈迦弥陀二尊をめぐる（その一）／四 釈迦弥陀二尊をめぐる（その二）／五 「得大勢至」の信仰世界／おわりに

終 章 豊穰な中世の真宗儀礼

一 真宗儀礼の歴史の変遷と両堂の空間／二 礼拝対象掛け軸が掛けられた空間／三 様々な礼拝対象掛け軸と真宗儀礼

初出一覧／図版一覧
あとがき

◆著者略歴

一九六〇年、三重県生まれ。早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。浄土真宗教学研究（のち教学伝道研究センター）、浄土真宗本願寺派総合研究所と改称）研究員、本願寺史料研究所研究員、高田短期大学仏教文化研究センター研究員などを経て、現在、浄土真宗本願寺派西勝寺住職。

注文書	
(書店印)	
ご担当	様冊
山田雅教著	
法藏館	
定価六、八二〇円	
住所	
お電話	
お名前	
中世真宗の儀礼と空間	
ISBN: 978-4-8318-7924-0 C3015	

ご注文はFAX: 075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

仏教・真宗